A—6　デンプン粒の研究
—イネ種子の成熟に伴うビタミン B_1 の微細組織化学的研究—

広島大教育　○川上いつゑ
田村　咲江

1.　前演者ののべたデンプン生成に伴ってビタミンB_1が，どのような動きをするかを確かめる。

2.　材料は広島県下で栽培されている中生新千本を用い，授精前，授精直後，２日，３日，５日，10日と子房をとり出して使用した。

グルタールアルデヒド前固定，オスミック酸後固定アルコール系脱水後エポン包埋をした。以上の操作中何れの薬品にも0.1％塩化白金酸を加え，ビタミンB_1を沈澱させた。

3.　ビタミンB_1はチオクローム法による光学顕微鏡観察では germinal layer と核に極めて顕著であるが，微細構造では Micro body をとりまく粗面小胞体(ER)の膜の上にライボゾームと共存して極めて多く認められ，細胞活性の高い部域に多いことがわかる。なお核においても核をとりまく核膜にも多く，また核の内部にも見出される。

デンプン形成がまさに行なわれようとするMicro bodyは多くのビタミンB_1でとりかこまれ，デンプンが成熟すると少くなり，デンプン内では全く見出されない。